

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292000066		
法人名	社会福祉法人 梅仁会		
事業所名	高齢者グループホーム 峰の杜		
所在地	長崎県対馬市峰町三根44番地3		
自己評価作成日	令和7年12月10日	評価結果市町村受理日	令和8年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 8年 1月 30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○利用者の皆様が住み慣れた自宅同様に生活できる環境を整え、家族、地域とも連携を取りながら安心して生活できる環境づくりに努めております。
○利用者の皆様が馴染みの病院など入所後も継続して利用できるような体制づくりに努めております。
○四季折々に触れる外出機会を多く設ける事で、利用者の認知症進行の予防に努めております。
○何よりも職員が笑顔で働く事で利用者が安心して生活できると心がけています。
○新型コロナウイルス感染症予防に十分留意した上で、ご家族と入所者の皆様のコミュニケーションが取れるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、利用者も職員も皆が穏やかに過ごす家のような雰囲気のある場所をつくりたいという開設からの思いを大切にしている。入浴は毎日、午前と午後に分けて支援し、温かいものを温かいうちに食べることができる食事介助、対馬ならではの郷土料理は担当職員それぞれの家庭の味である。峰の杜便りには、日常生活のさりげない光景を温かい言葉を添えて切り取った記事が満載である。利用者一人ひとりの状態に応じた居室の工夫や、屋根樋に溜まった腐葉土利用の野菜作り等、管理者の創意溢れる施設整備、峰の杜商店と名付けた買い物物体験等、利用者への思いやりが、かたちづくられている。事業所では、本人にあったケアはどうあるべきか職員自らが考える力を付けることに注力し、研鑽を積んでいる。理念である“尊厳・思いやり・絆”を具現化している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・事務所・休憩室に理念を掲示し、毎日のミーティングの際に職員全員で唱和し理念の共有と確認に努めている。	職員が日常的に意識付けできる場所に理念である“尊厳・絆・思いやり”を掲示、毎朝唱和している。管理者は、皆が穏やかに暮らすことができる家のような雰囲気を大切にしたいという開設時からの考えを受け継ぎ、利用者本位の介護の実現に向けて主体的に考えて実践できる職員育成に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症予防に注意しながら、地域の方と交流が図れるように努めている。又、散歩や買い物が可能なお方には一緒に出かけている。地域で開かれる清掃活動に参加したりしている。	年2回の地区清掃や祭りに職員が参加している。コロナ禍前は祭りの推進役として管理者が活動している。保育所の子どもたちが事業所の庭に散歩に訪れるなど、地域住民とは顔馴染みで日常的な付き合いがある。地区で高齢者を見かけた際には、地域住民が自然に声を掛け合う関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症施設としての特色を生かし、地域で認知症を抱える家族などの相談や認知症対応などの意見交換を行った。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告、取り組みについて報告し、意見を参考に支援に取り入れている。※困難事例などを運営推進会議で取り上げ、施設だけでなく運営推進委員も含めて支援方法を模索している。	家族や地域住民代表、行政担当者等が参加しており、詳細な状況報告を行っている。地区長から地域行事の情報を得るとともに、行政担当者から事故ヒヤリハット事例についての助言を受けている。会議に参加していない家族には、面会時に口頭で報告すると共に会議録を渡している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関すること・生活保護受給者・身寄りのない方などの支援内容について現状報告を行い、意見や指導を仰いでいる。施設行事への参加案内、市主催の研修会参加など連携に努めている。	管理者は、利用者に関わる長寿介護課や担当課への各種申請手続きを担うとともに、介護認定審査会の委員を務めている。市主催の認知症サポーター研修や病院、保健所主催の感染症対策についての勉強会等に職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待にあたる内容を職員へ周知し、普段から職員同士でチェックしあう体制をとっている。日中、玄関は施錠していない。帰宅願望があり、外に出る利用者には落ち着かせるまで一緒に散歩をしたりお話を傾聴している。	身体拘束適正化のための指針を整備し、3ヶ月毎に事例研修を行っており、オンライン研修は録画し全職員が視聴している。居室の見守り機器の導入については家族に説明し同意を得るとともに、運営推進会議において状況を報告し適正化を図っている。職員は、利用者の行動を制限せず、言葉遣いや接し方に配慮し支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事案がないか、虐待に繋がる事項はないか毎月チェックし、3ヶ月に1回虐待予防委員会を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業の利用者がいらっしゃる為必要に応じて支援を行っている。職員にも支援内容について説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明に努めている。処遇改善加算率の変更など随時利用者と家族へ報告し周知に努めている。また、疑問などがある際は施設へ連絡していただくように伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項にも謳っているが、要望・苦情・相談の受付担当を設けている。また、第三者委員を設けて利用者・家族からの要望や意見は施設運営に反映する体制をとっている。	利用開始時に相談窓口や基本姿勢について説明している。家族には事業所だよりや電話、面会時等を通じて利用者の様子を伝えながら、意見や要望を聴取している。母体法人の行事に家族へ参加を呼び掛け、話しやすい関係づくりに努めている。利用者との日常会話から意向を汲み取り、支援内容の見直しに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の行っている人事考課において職員の意見等を述べる機会がある。また、職員からの意見で施設で対応できない問題などは代表者へ相談している。	管理者は、毎月のケア会議や日常の対話を通じて職員の声を聞いている。また、年1回の自己評価および管理者との面談の機会を設け、職員の思いを把握している。日頃から声掛けし、意見を述べやすい環境づくりに努めている。職員の希望休やシフト調整、現場の意見を踏まえた物品購入や業務の見直しを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回実施しており、職員の意見等も聴取している。また、正職員転換に向けた制度も整備している。職場環境も職員の意見を反映しながら改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会へ参加する機会を増やしたり、研修会などへは積極的な参加に努めている。また、研修内容を共有することで、職員の質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の施設との合同行事や社協主催の研修などに参加する機会を設けてネットワークづくりなどに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に本人宅を訪問し、生活状況の確認を行い、入所後の生活について説明している。入所前に施設の見学をお願いしている。また、担当ケアマネがいる場合は情報共有を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人宅を訪問し、家族、本人からお話を伺うようにしている。また、担当ケアマネがいる場合は情報共有を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅の担当ケアマネージャーと家族、本人の意見を交えての支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の人生観と生活歴を尊重しながら、施設の中で利用者の役割作り、他の利用者との関係性の把握にも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活の様子を機会があることに伝え、生活の中で発せられる家族への思い等を代弁し、家族と共に本人を見守る支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症予防に注意しながら、住み慣れた地域へドライブに出かけたり、知人の方が入所されている施設を訪ね交流していただいている。又、可能な限りかかりつけ医の変更をせず、馴染みの方との支援に努めている。	職員は、利用者や家族等とのアセスメントを通じ生活歴をフェイスシートに集約している。新たに得た情報は、ケア会議や連絡用SNSで共有し、記録に反映している。家族や知人の面会や外出が可能であり、家族の協力のもと自宅外出や墓参りも実施している。裁縫など趣味活動の継続を通じ、馴染みの人や場との関係維持を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や生活習慣を理解し、職員がコミュニケーションを支援することで利用者同士の関係性が円滑になる様に支援している。、個々のストレングスに視点を置いた支援を行うことで、利用者が達成感を感じられるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた方については施設を訪問する機会がある際に様子を伺っている。又、退所されたご家族とは地域でお会いした機会にお話し、関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や表情から察したり、家族や知人からもお話を伺っている。職員間の情報共有は申し送りノートやミーティングで行っている。しかし、入所後時間が経って新たな本人の意向に気づくことがある。	職員は、利用者が安心できる言葉で日常的に声掛けし、事業所での過ごし方や思いを把握している。得た情報は記録し、職員間で共有している。利用者が思いを言葉にできない場合は家族の協力を得ている。生活リズムや衣類の選択は本人の希望に沿って調整し、レクリエーションも無理強することなく本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に自宅を訪問し生活環境の把握に努めている。在宅時の担当ケアマネージャーや利用されていた介護保険サービス事業者からも情報を得ている。又、本人・ご家族からも生活の様子についてお話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝食後のバイタル測定、食事量の把握、排泄サイクル、行動の観察などで体調を把握し、個々に応じた家事支援や作業を提供する支援を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の抱える問題や介護支援の内容について、必要な支援など職員から意見を求め作成している。又、家族にも相談を行い、家族からの要望等も反映できる様にしている。	利用開始時に本人や家族の希望を踏まえ、長期・短期目標を設定した介護計画を作成している。毎月カンファレンスを実施し、利用者や家族の思いはケア記録に記入している。計画内容は本人や家族の同意のもと実践している。ただし、アセスメントシートや介護計画では、本人や家族の意向の変化が確認できない。	職員が収集した本人や家族の思いや意向について、ケアマネージャーとの情報共有のさらなる円滑化が望まれる。現場で把握した意見や気づきを計画に反映する仕組みづくりに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の体調や生活の様子は個人用の時系列での記録に残し、職員間で情報の共有に努め、改善が必要な時は話し合い改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに対して、事業所だけの解決にとどめずに、地域などのインフォーマルな部分も活用しながら支援にあたっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症予防に注意しながら、地域行事への参加、馴染みの方がいる老人施設を訪問し、関わりを継続し、楽しみを持って過ごせるように支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も在宅時のかかりつけ医が可能な限り受診できるように支援している。検査や入院が必要な時は紹介状をもらい、病状に応じた医療機関を受診している。	在宅時からのかかりつけ医の継続受診を支援している。受診の付き添いは職員が担当することを基本とし、検査や病状説明時には家族へ同席を依頼している。受診結果は家族へ報告し、異変時にはその都度連絡している。外傷等については法人内施設の看護資格取得者に相談し、助言を得て対応しており、緊急時の体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいない為、利用者様の体調観察は職員全員で行い、異変時は、主治医へ報告し、指示を仰ぎ、早急に適切な病院受診が行えるように努めている。また、近隣に系列の老人施設があるので必要時には施設看護師に相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至る経緯をケアパスを利用し伝え、退院時は入院中の経過や退院後の注意点などについて指導を受けている。地域連携連絡協議会に参加することで、日ごろから医療機関との情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応について説明は行っている。地域的にすぐに特養への移動が難しい。当施設で対応できる限りは支援を行う方針である。本人、家族の希望を踏まえ、他の施設への移動の支援も行っている。	重度化及び看取りに関する指針および同意書を整備し、契約時に説明している。現在、看護師が常駐しておらず24時間の医療体制が確保できないことから、現時点では事業所での看取り実施は限定的であることを家族へ周知している。今後の体制整備を見据え、看取りに関する研修を継続して実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の救急車手配の手順や連絡体制を確保している。救急隊へ利用者の既往歴や異変時のバイタル等詳しく報告できるように情報提供書を作成している。救命講習を毎年受講し、救急手当ての指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年に2回の消防署立会いの訓練と月1回の自主訓練を行い、非難誘導方法を身につける努力をしている。地元消防団と地域住民にも一部訓練に参加して頂き、火災時の訓練に合わせて災害時の避難訓練も取り組んでいる。	火災発生場所を変えるなど、自然災害や救急救命処置を含めた想定訓練を毎月実施している。年2回、消防署立会いによる訓練である。非常持ち出し品や連絡先一覧を整備し、保険会社主催のBCP研修をオンラインで受講している。訓練以外に、川の氾濫時には近隣住民の協力を得て対応した実例があり、地域との連携体制がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	玄関に「職員宣言」「プライバシーポリシー」を掲示して常に意識することで、利用者のプライバシーに配慮し、尊重した支援に取り組んでいる。	職員は、一人ひとりの尊厳に配慮した関わり方や接し方を共有し、本人が望む呼称を徹底している。失敗時はさりげなく支援し、居室や入浴時のドアの開閉方法など、プライバシーに配慮して支援している。職員の守秘義務を徹底し、書類は事務所で管理するとともに、写真使用については家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や交流を通じて思いや希望が理解できるように努めている。また、健康状態にも心理的な側面が反映されることも多いので、心と体の両面から支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながらも、日中はできるだけ離床し、活動的に過ごせるように、家事などの仕事やレクリエーションなどを提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて美容院へ同行したりしている。衣類の購入は家族にお願いしたり、購入代行も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた食材を使い、できる範囲で利用者にも準備や味付けを手伝ってもらっている。馴染みのある、対馬地方の味付けを心がけている。お盆拭きやお茶の準備は利用者にも可能であるが他の片付けはできない方が多く、支援が難しい状況である。	職員は、地域の特色や季節感を大切に献立を作成している。出来立ての提供や咀嚼状態に応じた形態や盛り付けにも配慮し、おいしく食事ができるように努めている。利用者との会話から希望を速やかに取り入れ、調理の下準備に関わってもらう機会を設ける他、季節行事に特別感を持たせるなど、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活習慣に応じてお茶やコーヒーを提供している。体調に応じて飲料水の種類も検討している。偏食のある利用者様には代替食を提供し、栄養量の確保に注意している。夜間の水分は毎日準備し摂取を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアへの声かけを行い、自分で洗ってもらう支援に努めている。介助者には毎食後職員が付き添いながら支援している。週に1回、洗浄剤への漬け込みを実施し、歯科治療が必要な方には受診の対応もおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導と声かけを行い、排泄の支援を行っている。夜間のみオムツ着用される方も、できるだけ日中はトイレ誘導する事で自己排泄が出来る様支援に努めている。	日中はトイレでの排泄を基本とし、状況に応じてポータブルトイレを使用している。排泄チェックを記録し、ケア会議で支援内容を検討している。職員は、誘導のタイミングや見守り方法、パッドの使用方法や大きさについても個々の状態に応じて見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を記録し、必要に応じて内服や水分量を増やす支援を行っている。運動の声かけも続けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の身体の状態に応じて機械浴と一般浴の選択を行い、その日の状況で入浴順も対応している。入浴を好まれない利用者もおられ、声かけや誘導に配慮している。	事業所は、個浴と機械浴を備えており、入浴は毎日、午前と午後に分けて支援している。利用開始時は個浴と機械浴の双方を試し、本人に合った方法を選択している。その後は状態に応じて変更することもある。毎日の入浴を希望する利用者にも対応しており、入浴時は会話を楽しみ、安心して入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週に1回のリネンの洗濯と布団干しに努めている。又、室温に注意し、エアコンの使用を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の病気や内服薬については、受診担当者よりの報告や処方箋で薬の用法など周知している。服薬後の症状の変化等は記録に残し、全職員が共有し、次回受診時主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸、裁縫、散歩などその方に応じた作業を行ってもらっている。いままで楽しんでこられた日課などの気持ちも尊重した支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブを利用し、昔の懐かしい場所や自宅付近を訪問することもある。買い物については、受診時の帰りや希望時に買い物代行を行う対応をしている。	法事や墓参り、自宅への帰宅などの個別外出は、家族の協力を得ている。普段は敷地内を散歩し、プランター菜園や洗濯物干しなどの日常活動を楽しんでいる。紫陽花や紅葉など季節感を味わうドライブを行う他、近隣施設の敬老会や桜まつりにも参加しており、外出を通じて季節や地域との触れ合いを楽しめるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に応じてお金の所持、買い物支援を行っている。お金を持つことで安心感が得られる気持ちは十分に理解できるが希望に添えない場合もある。入所時家族とお金の所持については相談行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設に公衆電話がないため希望時は家族に連絡し、折り返し電話をお願いしている。携帯電話を所持されている方は居室で自由に電話されている。手紙などは希望があるときは職員が代行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や照明に注意し、排泄介助後の臭いに注意している。季節に応じた貼り絵や塗り絵を行い、ロビーや玄関に掲示している。行事などの写真もリビングに掲示して写真を見て想起することで認知症予防にも努めている。	利用者は、ソファ、大型テレビのあるリビングで思い思いに寛いでいる。トイレや手洗い場など戸感しやすい場所は図で示し、安心して利用できるよう配慮している。共同制作物や写真を掲示し話題にする等、利用者の視点に立った空間づくりを行っている。管理者手作りの乾燥対策や換気、清掃を行い、快適な環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブルとソファを別に設け自由に過ごしていただいている。人間関係を考慮し、遠慮せず食事が食べられるように席の配置に配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団や生活用品を持参してもらっている。家族や孫の写真を貼ったり、ラジオなどを持ち込まれ楽しめる方もいらっしゃる。	居室への馴染みの物の持ち込みは自由である。日差しが強い居室には、遮光カーテンを設置し心地よく過ごせるよう工夫している。持ち物が視界に入ると落ち着かない場合は、クローゼットに収納するなど、一人ひとりの特性やこだわりに応じている。清掃時も利用者の大切な物に配慮し、快適な環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわかるようにポスターを貼ったり、居室の取っ手に目印を点けたり、洗面所や玄関に椅子を設置し、安全な日常生活が送れるように配慮している。		